



3 第1回学校関係者評価委員会の開催（4月末～5月）

学校関係者評価委員会は “学校の応援団”

学校の評価計画に沿って、学校関係者評価委員を選出し、第1回学校関係者評価委員会を実施します。評価委員との出会いの場です。

よい関係をつくるためにも、会のもち方を工夫しましょう。

資料P54

学校関係者評価委員会は、何のためにするの？

学校、保護者や地域との双方向からの情報交換により、信頼される、開かれた学校づくりをめざしましょう。そのためには、地域の方々の協力が必要です。

- (1) 評価活動を通じたコミュニケーションにより、保護者や地域住民などと学校が互いに理解を深めることが、学校関係者評価の大きなねらいです。
- (2) 学校関係者評価は、学校の自己評価の客観性・透明性を高めることが目的です。
- (3) 学校関係者評価は、保護者や地域住民などが、よりよい学校づくりのプロセスに参加するための仕組みです。

学校関係者評価委員会って、何をするの？

- (1) 保護者や地域住民に学校の経営計画や重点目標について理解し、学校の思いを知ってもらいます。
- (2) 授業や行事など学校の教育活動を参観してもらい、子どもたちの様子や学校の取組を理解してもらいます。
- (3) 地域での子どもたちの様子を見ていただき、情報交換を行います。
- (4) 学校が取り組んだ学校自己評価について客観性・透明性を高めるために評価してもらい、学校の教育活動への意見や感想をもらいます。

評価してもらいたいことを 評価してもらいたい人に

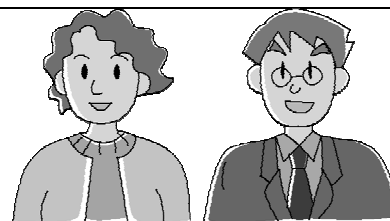
学校評価計画に沿って、何を評価してもらおうのかを明確にし、そのためにはどのような人に学校関係者評価委員になってもらった方がよいのか考えて選びます。

- ・ 接続校の教職員
- ・ 同じ中学校区の小学校の職員
- ・ 保護者
- ・ 学校評議員
- ・ 区長
- ・ 民生児童委員
- ・ 地元企業の関係者
- ・ 地元婦人会
- ・ 地元青年部
- ・ 卒業生
- ・ 社会体育指導者
- ・ 青少年健全育成関係団体や警察の関係者
- ・ 地域住民
- など

また、学校関係者評価委員に、学校の応援団として地域の方々に学校のことを伝えていただきましょう。学校の宣伝をして地域と繋ぐ役割を果たしていただき、地域と一体化した学校教育を推進しましょう。

知ってもらおう、私たちの取組や思い・願い

- ① 学校評価の目的、評価に対する考え方や
学校関係者評価委員の役割
- ② 学校評価活動スケジュール
- ③ 前年度の学校評価結果
- ④ 本年度の学校の状況と評価計画



児童数、学級数、職員数、職員紹介、評価項目に従った行事予定、教育目標、
学校経営ビジョン、重点目標、本年度の評価項目、具体的目標、具体的方策

- ⑤ 学校を見る観点（見てもらいたい点）

資料P48

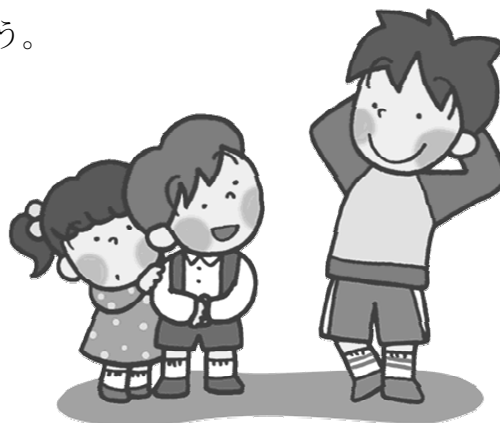
- それぞれの評価委員に担当して頂きたい分野をお願いする方法もあります。
- 評価委員として評価できない項目があってもいいことを伝えます。
- 第1回目の関係者評価委員会は、学校と評価委員との出会いの場でもあります。
授業参観・給食参観をしてもらう、自己紹介、管理職以外の職員との顔合わせを
するなど、委員会のもち方を工夫し、お互いが知り合い、目標を共有するために、
うち解ける雰囲気をつくることも大切です。
- 学校の思いや願い、評価委員の学校への思いや願いをお互いに知ることが大切
です。

関係者評価委員会のもち方を工夫しましょう。

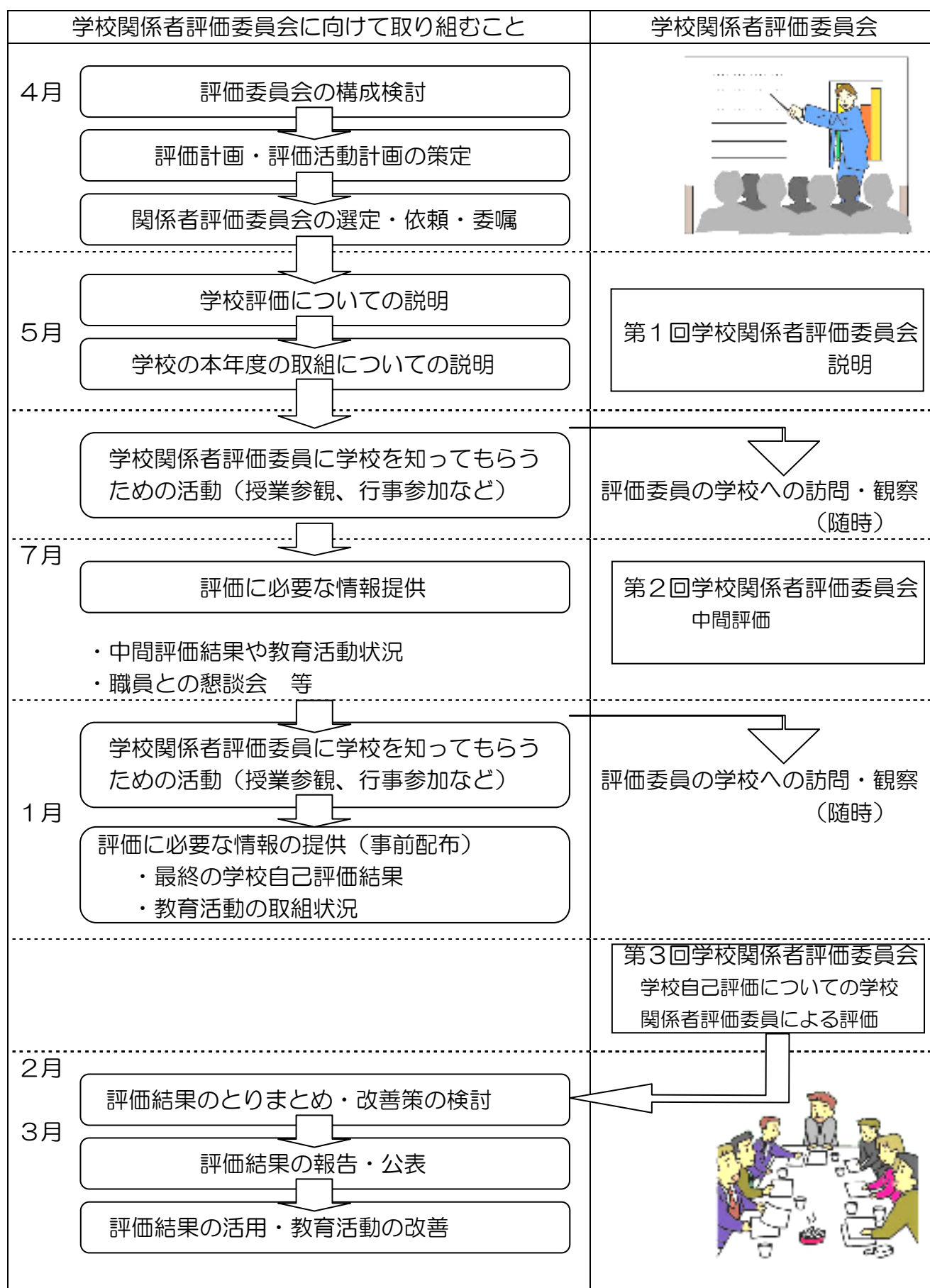
資料P54

第1回目の学校関係者評価委員会は、学校と評価委員との顔合わせの場でもあります。
お互いに率直な意見が出し合えるように、第1回学校関係者評価委員会のもち方を工夫
しましょう。

- ① 教職員全員と評価委員とが一緒に協議する。
- ② 校務分掌・プロジェクトごとにグループ協議をする。
- ② 生徒指導の会議や校内研修会などに学校関係者評価委員が入る。
- ③ 授業参観日に実施し、授業を参観してもらう。



学校関係者評価委員会開催までの流れをつかもう



各学校での学校関係者評価の進め方（嬉野市の基本的な例）

① 学校関係者評価委員

各学校の学校評議員、PTA会長、PTA副会長（1名）、校長、教頭、教務
（学校によっては、接続校教員（小中学校等）が相互に加わることがあります。）

② 学校理解のために

学校関係者評価をしていただく前に、学校のことを知っていただくことが必要です。そこで、学校から色々な情報発信を行い、学校関係者評価の資料としていただきます。

○ 学校教育目標、学校行事、学校の取組のお知らせ

班回覧の学校便り、ホームページ、学校関係者評価委員会（年3回）等で知らせます。

○ 学校行事参観による学校理解

運動会、体育大会、水泳大会、マラソン大会、文化祭、合唱コンクール、校内弁論大会、PTA総会等を都合がつかれる時に、観点を念頭においてご覧いただきます。

○ 授業参観による学校理解

授業参観（平日、日曜）、嬉野市教育の日（12月13日）

○ 嬉野市の学校関係行事による理解

秋の音楽会（11月14日（土））、市内小中学校駅伝大会（11月）、青少年弁論大会（2月）等

○ 職員との合同会議開催

学校の取組によっては、職員との合同研修、職員との合同会議等へ参加いただくこともあります。

③ 評価の観点

○ 評価の観点を各学校から項目でお知らせします。

資料P48

④ 学校関係者評価をしていただく機会

○ 各学校の学校関係者評価委員会

年3回の委員会の日に、授業参観、校内見学、或いは合同会議等での情報をもとに、学校関係者評価（学校が自己評価したことについて評価する）をしていただきます。

⑤ 学校関係者評価委員会の予定時期、内容

	予定時期	内 容 例	参観等の例
第1回学校関係者評価委員会	5月	① 学校教育目標や重点項目等の説明 ② 学校評価の進め方の説明 ③ 学校自己評価項目等について協議	・授業参観 ・校内見学 ・部活参観等
第2回学校関係者評価委員会	8月	① 7月の学校自己評価結果の説明 ② 7月の学校自己評価結果についての 第1回学校関係者評価実施 ③ 1月の学校関係者評価項目等の検討・確認	・校内見学 ・部活参観等
第3回学校関係者評価委員会	1月	① 外部アンケート結果及び学校自己評価の説明 ② 12月の学校自己評価結果についての 第2回学校関係者評価実施	・授業参観 ・校内参観 ・職員との合同研修等

学校関係者評価の進め方

（ガイド版）

1 学校の事をたくさん知っていただく。

- ・学校だより等でお知らせ
- ・学校行事、授業参観等においてください。



2 どこをどう観るのか。

- ・学校から観点をお知らせします。



3 いつ評価するのか。

- ・年3回の学校関係者評価委員会の際の授業参観、校内見学
また、各種学校行事でご来校の際に学校の状況等を把握していただきます。
- ・その情報をもとに学校関係者評価をしていただきます。



4 何を評価するのか。

- ・学校関係者評価（学校が評価した内容に対しての評価）をしていただきます。

3 学校関係者評価 実践例

写真やグラフなどで示すと

「学校関係者評価委員への説明」

効果的です

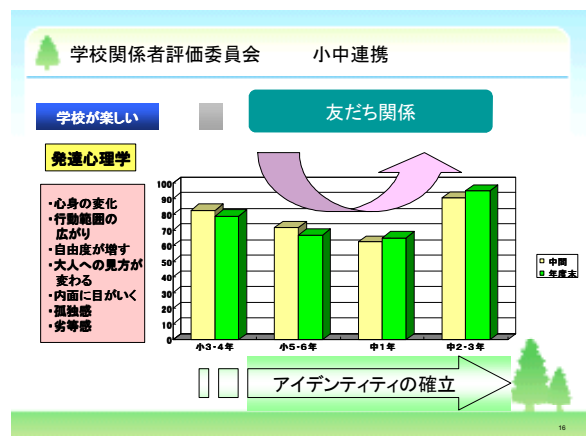
学校関係者評価委員に自己評価を説明する場合、分かりやすい説明をして十分納得してもらわなければならないと思います。例えば、普段学校で、当たり前に使っている教育用語も丁寧に説明しなければ、学校関係者評価委員には、理解が難しいと思います。また、自己評価でA～D評価をつけたその理由や改善点等も具体的に説明した方が良いでしょう。

学校関係者評価委員会で、自己評価の説明を紙面上で行う場合、文字の羅列が多く「読んでも具体的な子どものイメージがわきにくい」という意見が出ました。具体的な子どもの様子が見えなければ、学校関係者評価は難しいはずで、そこで、授業参観や学校行事になるべく来てもらい、子どもを観察したり、保護者や教師と積極的にかかわってもらうようにしました。

しかし、学校関係者評価委員に案内を出しても、所用で学校に来られない場合もあるので、多くの映像をとっておき、プレゼンテーション（学校説明）の中に取り込みました。更に、アンケート結果をグラフ化し、このグラフから何が言えるのかを絞って説明しました。特に中間アンケートから年度末アンケートにかけての推移を説明したり、過去5年間のアンケート結果で、中期的な推移も説明しました。その他に、数字では表現しにくい部分には、子どもの作文等をのせて、十分な理解が得られるよう工夫しました。

学校関係者評価委員も回を重ねるごとに「学校の説明がよくわかるようになった。やはり、映像等があった方が文字だけよりも理解しやすい」と言われ、好評を得ることができました。

この結果、自己評価を良く理解した上で、学校関係者評価ができ、学校評価の充実に繋がったと思います。



アンケート結果をグラフ化

「教育活動の改善策」

学校関係者評価委員会の中で、特に意見交換が活発になされたのは、学校自己評価と学校関係者評価に大きなずれが生じた時です。項目によってA評価とC評価に分かれたの時は、なぜその評価になるのか？できているところとできていないところをお互い言い合って考えを深めていくことができました。方策に対する実践結果の曖昧さが議論の中心になりました。中間評価で活発な意見が出たので、学年末評価までの改善に大いに役立ちました。